C 4　地域の生活文化が児童の心身発達に及ぼす影響因子に関する児童学総合研究(秋田調査・13報)：児童の読書環境をめぐる検討

大妻女大家政　○中村恵子　平井信義　千羽喜代子　長坂陽雄　大場幸夫　松本昌昭　川辺克子

目的　本研究は、秋田県鳥海町を拠点に行われている一連の児童学・総合調査の一端を担う。これまでの実態調査や教師の報告から、・幼児の長時間テレビ視聴・家庭での話し合いの欠除・学習面で「教科書以外の文字面に触れる機会が少なく、一部児童を除けば、教科書を読むことすら困難な状況」が指摘されている。そこで①児童の文化財（本・テレビを中心）との接触の実態、②文化施設・設備の充足状況を調査し、享受者側に望まれるありようを探ることを目的とした。

方法　地域調査であることをふまえ、社会教育主事、教師等現地の人と調査を企画し、質問紙調査を実施。また面接・小集団話し合いを併用した。対象は次の通りである。○読書をめぐる実態調査①町立6小学校児童、728名、②婦人会若妻部会の母親、155名、○面接①町立川内小1～6年児童、36名、②若妻会有志、9名、③町立3保育園保母、全員。

結果　児童の文化財接触のキッカケを述べる。①児童の読書量は、全国調査に比しやや低い。②公立図書館はなく、本の入手経路は、学校図書室への依存は高い。③家庭での親子読書は、幼児・低学年にみられるが、1年生で38.8%、母親で20%は、親子で本を読むことは「ほとんどない」と答える。④家庭の新聞購読状況は、地区により3割～5割が未購読である。⑤テレビ設置数は2台が最も多く、うち1台は、共用でロックに設置されている。⑥夜の家族が人らん時は、89.6%がテレビ視聴を中心にしている。現在、①三保育所の絵本コーナー設置と保育者の研究活動、②K小学校図書室の改善、③若妻会有志の会合并改善策が始動し出したが、県下図書館整備網、共同利用体制の確立も望まれる。